

営業の概況

■経済情勢

当期におけるわが国経済は緩やかに拡大しましたが、企業収益の悪化、米国サブプライムローン問題の波及から世界景気の減速懸念等により次第に足踏み状況となりました。輸出は増加を続けておりますが、設備投資は増勢が鈍化しております。個人消費は雇用者所得の緩やかな増加を背景に底堅く推移しております。住宅投資は平成19年6月の改正建築基準法施行の影響で大きく落ち込み、回復への動きが見られるものの、なお低水準となっております。

以上のような内外需要環境の下、輸出企業を中心に生産は増加基調を続けましたが、年度後半は横ばい圏内の動きとなりました。

■当行の業績

当行は「安心、先進、そして前進」をキーワードに、地域起こしとしてのニュービジネス総合応援制度、セキュリティ重視のICキャッシュカードの発行等、新商品の開発、店舗網の拡大などを進め、地域との共生を目指しております。

ニュービジネス総合応援制度につきましては、地元大学との産学連携の拡大を進めているほか、「ニュービジネス助成金」、「コンソーシアム研究開発助成金」の2つの助成金制度への応募企業は累計900先を超え、ビジネスマッチング活動も積極的に行ってまいりました。

また、手のひら静脈、指静脈両方の生体認証方式に対応した交通乗車機能付きICキャッシュカード「スタシアサイカ」の募集を開始いたしました。

さらにマイレージ型「〈池田〉ポイントサービス」の取扱いを開始いたしました。

商品につきましては、銀行保険窓口販売の全面解禁を受け、全店において、「がん保険」と「医療保険」の取扱いを開始いたしました。

店舗ネットワークの拡充も積極的に進め、堺筋支店の開設を行いました。

業績は、次のとおりとなっております。

預金 個人預金を中心に年間542億円増加し、総預金の期末残高は、2兆1,911億円となりました。

貸出金 事業性貸出を中心に順調に推移し、総貸出金の期末残高は年間827億円増加して、1兆5,994億円となりました。

有価証券 期末残高は、含み損の一掃処理を行ったことから、年間5,769億円減少して、3,576億円となりました。

損益 資産・負債の効率的な運用と調達、並びに役務収益の増強等に努めましたが、今般、サブプライムローン問題が深刻化するなか、米国景気後退懸念等の高まりを勘案し、財務体質を強固なものとするために、有価証券関係損失635億円を計上し、有価証券含み損をほぼ一掃いたしました。結果、誠に遺憾ながら経常損失は643億円、当期純損失は550億円となりました。

配当 多額の損失計上となりましたので、普通株式は誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。また、第一種優先株式は定款第13条の2第1項の定めに従いまして所定の1株につき2円14銭とさせていただきます。

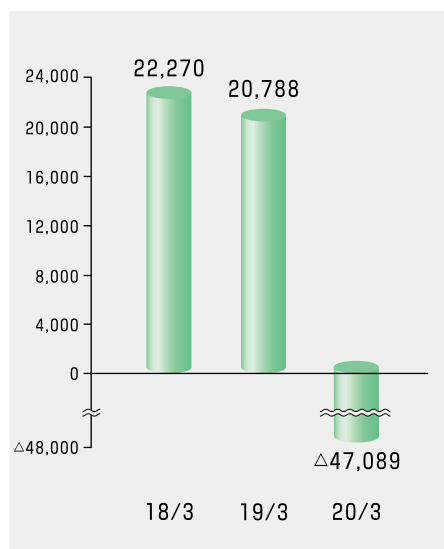
■今後の課題

米国景気後退懸念が高まってきたこともあり、当行は保有有価証券の思い切った処理を行い、含み損をほぼ一掃しました。有価証券運用については、相場変動に対し、ALM体制の強化等にて、より慎重に行ってまいります。また、有価証券の利回り改善等により、平成21年3月期には業績のV字回復を実現してまいります。

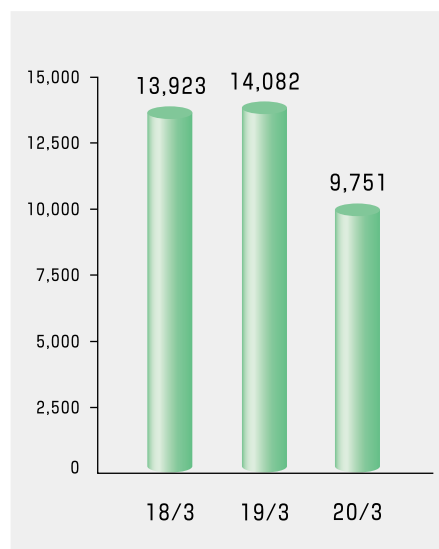
4月1日には泉州銀行との経営統合に向けて「統合推進委員会」を設置、5月30日には「経営統合に関する基本合意書」を締結し、規模と内容において関西を代表する独立系の金融持株会社設立のための具体的な内容の検討に入りました。皆様のご期待に添えますよう、全力をあげて取り組んでまいります。

何卒、引き続き格別のご愛顧とご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

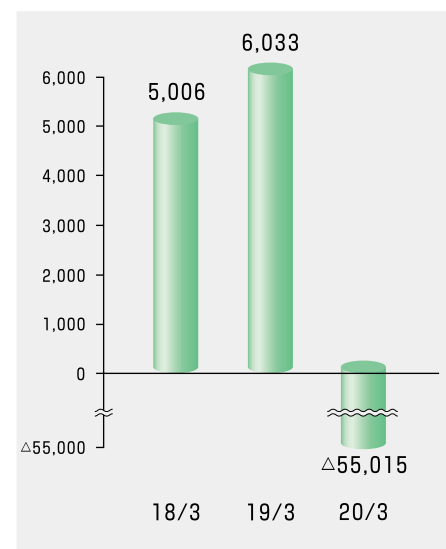
業務純益 (単位:百万円)



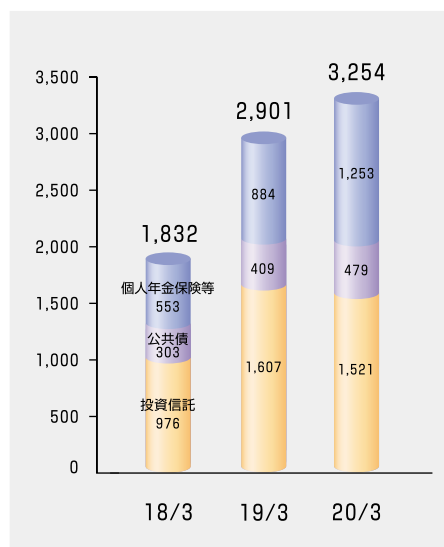
コア業務純益 (単位:百万円)



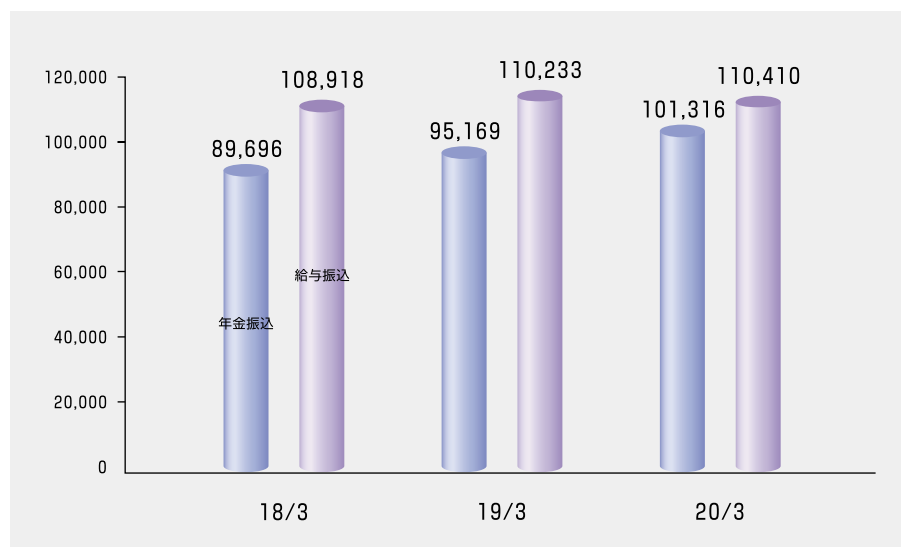
当期純利益 (単位:百万円)



預かり資産 (単位:億円)

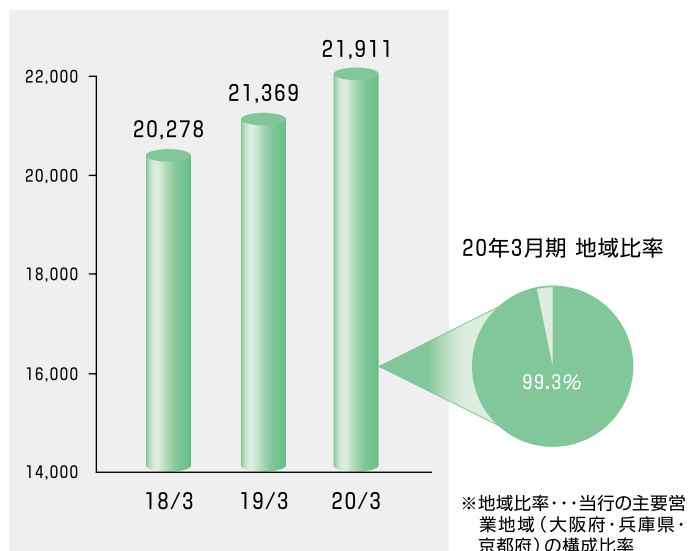


年金振込・給与振込 (単位:件)

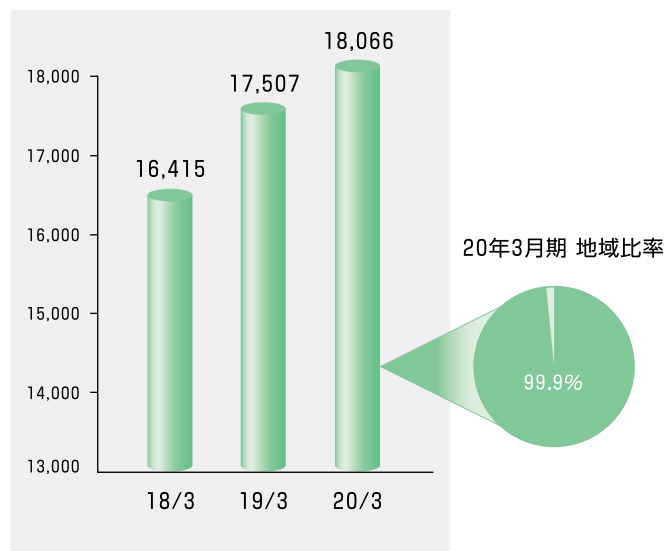


※個人年金保険等は、販売累計額を計上しております。

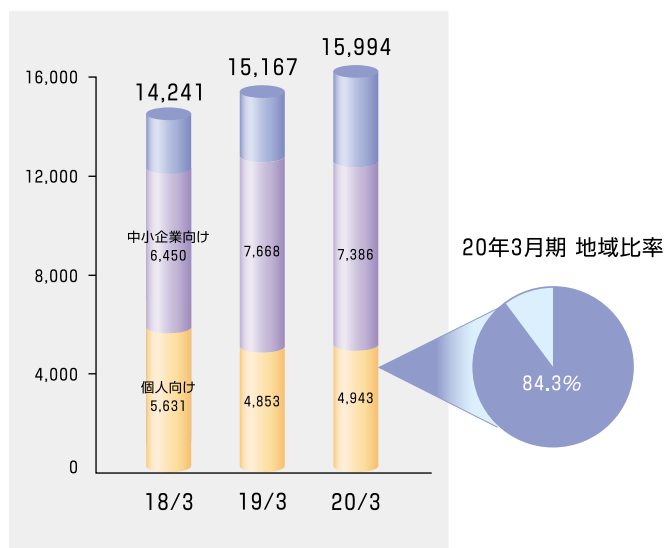
預金残高 (単位:億円)



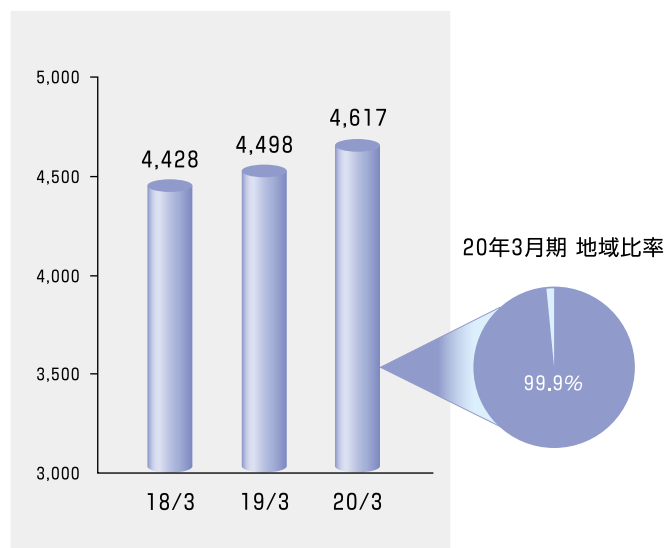
個人預金 (単位:億円)



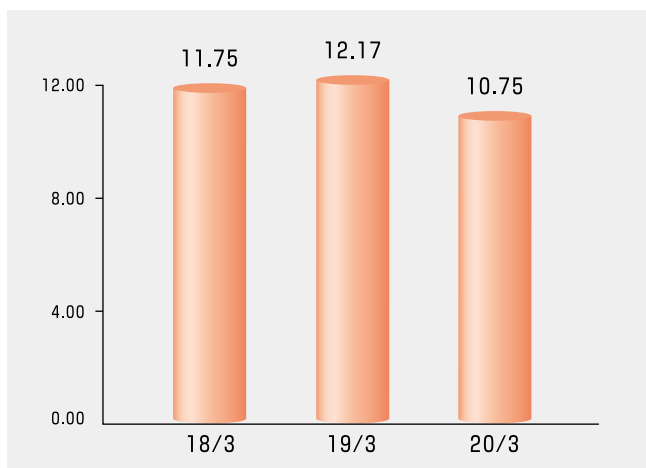
貸出金残高 (単位:億円)



住宅ローン (単位:億円)



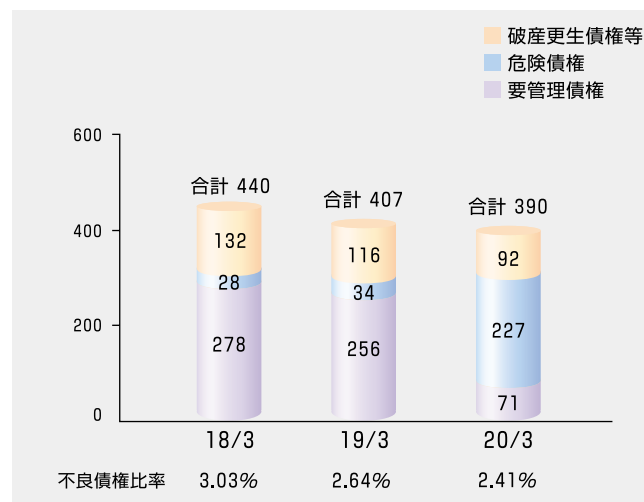
自己資本比率(国内基準・単体) (単位:%)



※自己資本比率の計算方式(国内基準) $\frac{\text{基本的項目} + \text{補完的項目}}{\text{リスクアセット}} \times 100$
(資本金、剰余金等) (一般貸倒引当金、劣後ローン等)
(信用リスク度合いを考慮した資産額)

資産の健全化について (単位:億円)

金融再生法に基づく債権の開示



平成20年3月期の保全状況 (単位:億円)

	債権額	保全額	保全率
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	92	92	100.0%
危険債権	227	192	84.5%
要管理債権	71	60	85.2%
合計	390	345	88.3%
正常債権	15,817		

保全額: 担保等による保全額 + 貸倒引当金

有価証券の状況(残高・含み損益) (単位:億円)

